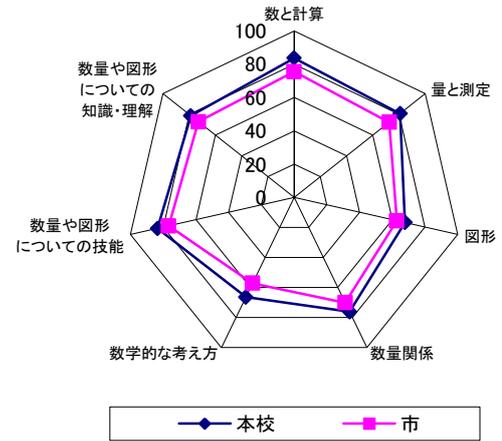


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.8	75.6	75.8
	量と測定	80.8	72.5	71.2
	図形	67.8	62.8	71.0
	数量関係	76.2	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	66.4	57.2	52.7
	数量や図形に関する技能	83.5	76.7	74.1
	数量や図形に関する知識・理解	78.8	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均を8.2ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○除数が1より小さい時の、商と被除数の大きさの関係を問う問題では、市と全国の平均を上回った。</p> <p>●図を使い、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、市と全国の平均を上回ったものの、正答率は51.1%であり、式の立て方に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式をした際に、それぞれの数字が、文章中の何を表した数字なのかを意識するよう指導する。 ・式を立てた際には、それを図や数直線に表させることで、どのような計算をしようとしているのかを考えさせるような学習場面を増やす。
量と測定	<p>平均正答率は市の平均を8.3ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○台形の面積、円柱の体積を求める式を選ぶ問題ではいずれも正答率が90%を超えており、公式の定着が見られる。</p> <p>●時速を求める式を選ぶ問題の正答率は90%に達しているが、道のりを求める問題での正答率は56.7%とであり、公式の読み替えに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さの問題のみならず、分かっていることや求めようとしているものを入れ替えた問題を解かせることで、自分で公式を変換して使うことに慣れることができるようにさせる。 ・実際の場面を想定させ、図に表すなどして、適切に公式を活用出来るよう指導する。
図形	<p>平均正答率は市の平均を5ポイント上回っているが、67.8%と他領域に比べると低く、課題が見られる。</p> <p>○合同な三角形を作図する問題では正答率が95.6%と高く、基本的な作図の方法の定着が見られる。</p> <p>●円の直径から円周を求める式を選ぶ問題では全国の平均を大きく下回っており、公式とその適正な活用の定着に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円の直径や円周、円周率などの基本的な用語の意味を確認すると共に、公式の形やその読み替えについても一度復習をする場面を設ける。
数量関係	<p>平均正答率は市の平均を6.1ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○比例の関係や反比例の関係を式に表す問題正答率は、95.6%、88.9%といずれも市や全国の平均を上回っており学習内容の定着が見られる。</p> <p>●割合や比を使って解法を説明する問題では、市や全国の平均を上回ってはいるもののいずれも正答率が54.4%、41.7%と低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割合や比は日常生活でもよく見ることから、実生活の中でも意識させるような場面を増やす。 ・全体の量に対する割合や比から、ある数量を求めるような問題をよく復習し定着を図る。